

全労連支援対策本部ニュース

「能登半島地震」支援対策本部

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階
TEL03-5842-5611 FAX03-5842-5620
Email:soumu@zenroren.gr.jp

2024年1月29日

NO. 4

「被災地支援へ」—石川県へ義援金を届ける ～七尾・恵寿総合病院、同労組を激励訪問～

震災から3週間すぎた1月26日、全労連支援対策本部は小畑本部長など対策本部メンバーが石川県庁を訪れ、義援金の一部200万円を届けた。また被災地・七尾市の恵寿総合病院、同労組を激励訪問した。

対応した石川県の中村一弥出納室長は、馳知事が義援金の配当委員会を1月末から2月中旬に開く意向を示したことに触れ、「いちはやく被災者に届けたい」と語りました。



小畑議長は全労連が「被災地のために何かしたい」という組合員の声に応え、発生直後に対策本部を立ち上げ、義援金を呼びかけていることなどを紹介し、継続して支援することを約束しました。石川県労連の桶間議長も同席しました。

水道の復旧 いちはやく

続いて、能登半島の中央に位置する七尾市の恵寿総合病院で、神野正隆理事長補佐と進藤浩美理事から話を聞きました。恵寿総合病院は、426床を有する七尾市から北の医療

を担う拠点病院です。断水が続くなか、井戸水や自衛隊から供給された水などを利用して、医療活動にあたっています。進藤理事は「とにかく水を」とライフライン復旧の必要性を語りますが、市内全域の断水が解消されるのは4月以降と報道されています。

石川県労連・長曾輝夫事務局長と石川県医労連・嵯峨猛書記長から義援金を手渡しました。

恵寿総合病院労組の真木享美（きょうみ）書記長は、七尾市内の自宅で被災。現在は金沢市内の息子の自宅から片道2時間をかけて通勤しています。

介護施設に親を預けられずに出勤できない職



員や、水不足で普段通りの医療ができないなかでの医療活動が続いています。

さらに3次救急を担う公立能登総合病院が受け入れられなかった患者を受け入れているため、「恵寿はキャパを超えている」状況です。

「今は使命感で気持ちが張り詰めているがこれが切れてしまったら離職者も出るのではないか」。

そんななか政府が打ち出した北陸地域への宿泊代を補助する「北陸応援割」や県が北陸新幹線の全線開通をアピールしていることに対し、「観光客より私らじゃないの？なんで」と力が抜けたと話します。

「足を運んで切実な声を聞いてほしい」と訴えました。

また市内の松原病院労組も訪問。同労組の干場真矢書記長に話を聞きました。ここでも水不足は深刻です。

被災直後に精神障害があるために患者が避難所にいられなくなったことを紹介し、「理解されていない。腹痛の病気と一緒になのに」と当時を振り返りました。今回の行動には、全労連から渡辺正道事務局次長、松井多恵子（全国災対連世話人）・大久保なつみ両事務局員が同行しました。



公的病院の統廃合 なぜいま

今回の震災で住民の命と健康を守る公的病院の脆弱さが明らかになりました。しかし馳知事は、奥能登2市2町の公立4病院の機能を統合し、能登空港隣接地に新たな病院を建設する計画を進めると、1月13日付の北国新聞のインタビューで答えています。小畑議長は「病院と学校がなければ地域に住み続けることはできない。地域医療の立て直しが必要なのは明らかだ」とこの計画を批判しました。

被災者支援へ 支援募金に協力をお願いします！

<振込先> 名義:全国労働組合総連合

<入金先> 郵便振込 00170—3—426272
ゆうちょ銀行 019店 (当)0426272

※通信欄には、必ず「能登地震支援募金」と明記してください。

